

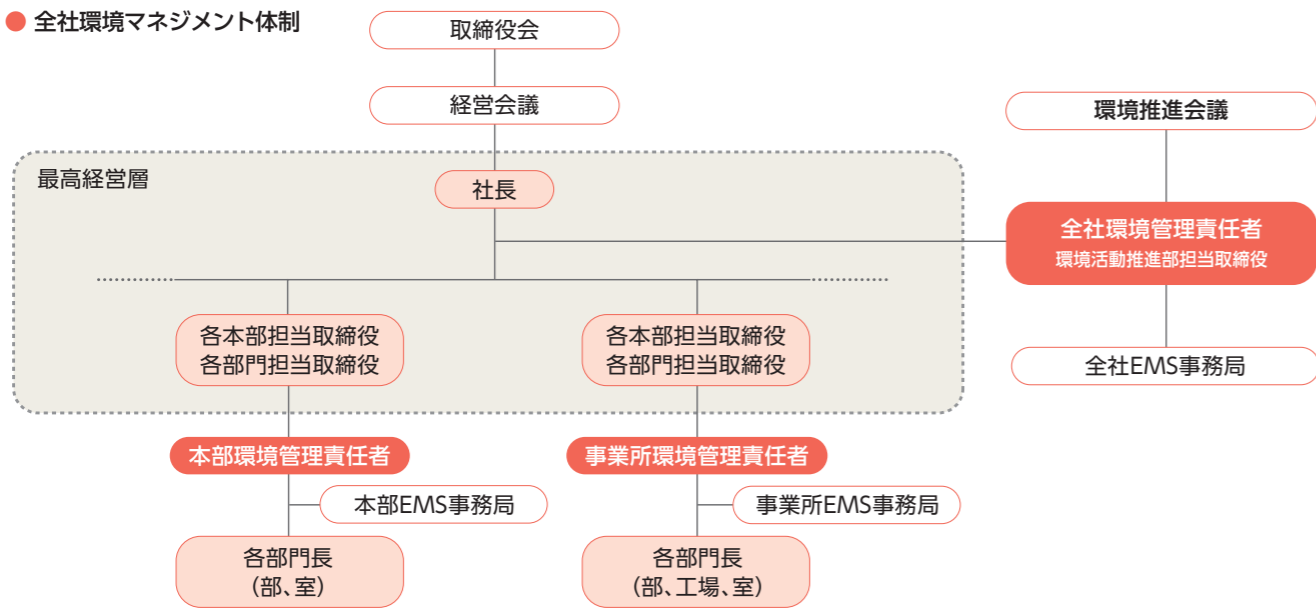
環境マネジメント

基本的な考え方

理想科学は、環境管理の組織、制度を整備し、環境目的・環境目標を設定して継続的な活動に取り組んでいます。

環境マネジメント推進体制

● 全社環境マネジメント体制



環境推進会議で重点課題に取り組む

当社は、1992年から環境推進会議の前身となる「環境委員会」を設置し、環境保全活動を継続してきました。2002年には「環境推進会議」として発展させ、取り組みを強化しました。そして2012年には、環境に関わる3つの重要課題である「省エネルギー」「製品の環境配慮設計」「廃棄・リユース・リサイクル」について環境推進会議の中に分科会を設置しました。各分科会で集中して議論を進めることで具体的な課題解決策の検討と迅速な社内合意形成につなげています。



環境推進会議「廃棄・リユース・リサイクル」分科会開催風景

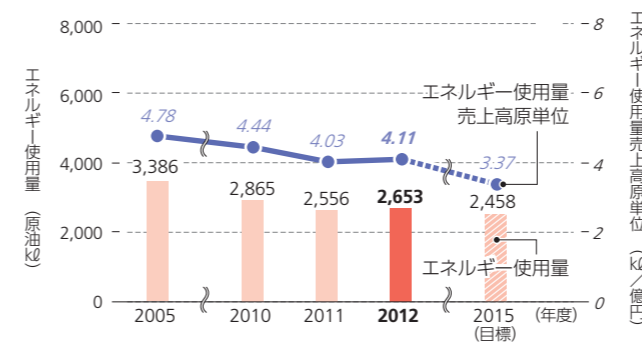
2015年度 全社環境目的 (中期目標)

■ エネルギー使用量 (原油換算) の削減 (2005年度比)

国内全体 (理想科学単体のみ) で

- ▶ エネルギー使用量を23%削減する
- ▶ エネルギー使用量売上高原単位を30%改善する

● 全社 (国内) エネルギー使用量および売上高原単位の推移



集計範囲: 理想科学単体国内全事業所のエネルギー使用量(委託物流量、社有車燃料使用量は除く)。売上高は単体売上高

■ CO₂排出量の削減 (2005年度比)

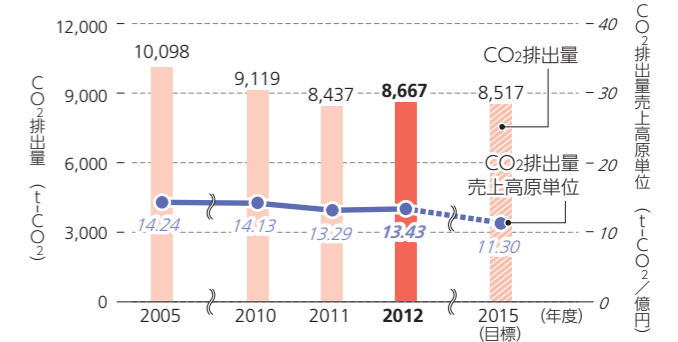
国内全体で

- ▶ CO₂排出量を15%削減する
- ▶ CO₂排出量売上高原単位を20%改善する

国内生産事業所合計で

- ▶ CO₂排出量を28%削減する
- ▶ CO₂排出量総製造原価原単位を30%改善する

● 全社 (国内) CO₂排出量および売上高原単位の推移



集計範囲: 国内全事業所のエネルギー使用量、社有車の燃料使用量、物流部所管の製品・サービスの物流委託量とそれに伴うCO₂排出量。売上高は単体売上高

Web 詳細は当社Webサイトの「データブック」に掲載しています。
<http://www.riso.co.jp/eco/report/>

CO₂排出量削減および エネルギー使用量削減

2011年度の東日本大震災による電力供給逼迫をうけて、2012年度も省電力に重点をおいた取り組みを継続しました。空調機 [P.12 Voice参照] や、照明をエネルギー効率の高い設備へ更新し、屋根の遮熱塗装など積極的な投資を行い効果をあげました [P.29 環境会計参照]。

運用面においては2012年度の電力事情が改善したことから空調の運転管理 (運転時間の限定など) を緩和したこと、並びに生産ラインの新設稼働、新製品の立ち上げに伴う残業の増加などによりエネルギー使用量が増加し原単位が悪化しました。ただし東日本大震災発生前の2010年度と比較するとエネルギー使用量原単位で93%、CO₂排出量原単位で95%と改善しています。



高効率型冷水ヒートポンプチラーの導入 (宇部工場)



工場屋根の遮熱塗装 (筑波工場)